



商人句



白商人序

雖波乃まゝれ物申あり
かゝる小艇百艘のまゝと
なり河のふりさひのなを
こゝろへはかりの終もまゝ
諸國より河つまるゝ白商人
とては船乃集りてかく

白も人跡多と冠し海をうたは
しとくふ輻湊の地の人うた
たきりりと薩摩は青葉を深
のくみ津くありく繁華の
人ゆけはるに心酔してとるん



登りくも又な降し小をれ 竹高
その竹も高う本わくく高士朗
はくく根の根本は彫り 竹有
蹴はくつくほやくまゆき草 高
ゆく居の暈を守月をうむん 五雄
あさききふ家な葉多うり 杜拳
螺多いて御幸を告家まよく 朗
新日くむふ高うきく 岳輪

岳輪 朗

何と云ふ事か
出とて松ふく圍の法是く
位より筆くゆる多ね人
機乃去ウニカ一水園乃月
魂柳を以てすきき義子
萩の原よりかきり性なり
梅多門を千舌梅くおる
此花や一き花梅為ま久く
有 奉 朗 輅 高 雄 奉 高

本が段又唯くむ法を指して
蛤うりの歳が笑つては
多けいさぬ人を傳ふ事
蜀のゆきやほくあつた
夏をらくはる多れて雨
うさきな友子を
ちかうふ松のきき
壺のすわぬ
有 鷗 輅 高 底 高

蚊をまてて寝人寐さる雨ふさ
朗
まきとそ月おらううおのそ
大極
卯のそとあやえのそと意きして
五是
うもれあう又花 寝るうなく
朗
ううや通うやけい家一才田
松菊
母をまててお柔せんは五本
大高
ゆくうお西又うゆふすい帯
吐山
まう何うもて 飯よまてまて
芒

お髪をとれハ冷き額とち
と極
債うううおさやふちのころ
菊
あうううおあまうてふも
高
鶴のあやうおと系入りと
山

右一巻於枇杷園興行

水多如海 肝う整く来る 梅留

又交多子 暮月如松 竹高

江心一たさ 新堂よ 鹿野

海子くくぬ人くくぬく 椿堂

はくくぬぬ乃 山石の始りて 士朗

月如いささく 池を産るは 桂五

松のめくえ けくくぬぬの抱 岳輅

草のなまきく かくぬ 岳力 黄山

疏なれて 犬く 想を 眠る 夢 秋拳

之上の 心さく けく 白き 留 留

孫善の 身一 回を 掃む して 高

勢 日記ハ 心と 孫く 古 九岳

塘まて 送つ けく 暮月 初 堂

く 心さく けく 暮月 初 堂

く 心さく けく 暮月 初 堂

く 心さく けく 暮月 初 堂

それとも枝を潜つかり入つ
あり〜とてき水降れ
昔のわたり習ひは物をまじり
ゆゑは五年頂う平之年
と云傳りしなりは是る金屏
をたふすはぬたれ之を
大牛の尻をまじりふはくは
編目と〜の華表なり
堂 拳 朗 岳 野 山 高 輪

傍邊の使り者うきとて
牡丹は〜けてまじり
我ま〜お〜や月の時
花の〜り〜もみね
法籍の〜わ〜人〜肩
竹の〜さ〜ふ〜た占
〜した〜た〜れ
〜は〜る〜ま〜せ
岳 堂 山 野 輅 高 五 留

五
水...
山梅
手水...
朗
峯

右一卷 於梅花園真行



三河
卓池
佳雄
木田
木牙
木南
耕隆
深古

四ツ辻を梅の浮世とていふ
高石 其松

出られても梅はありぬ彼存るれ
相模 葛三

やうやうにゆく笑ふに思ふれ
雄咏

時をばうて人又えりぬ本や草花
秋溪

寝すれはきこて梅はあはれ
舒来

神の香又つるれ胡蝶の行度
芝女

園中やう海のはしあはれ
百桂

夜飼ふるをばあはれ
梅中 枕佐

暁やうれの情う人へ
道彦

苗代とまき水はあり
梅ナ 梅蘆

雨の日の雪らふ
直墨

遠やうや菜の花
江戸 白芥

雛子とく
濱松 吐鳳

日浅くは梅はあはれ
有来

春もあはれ
成田 素迪

花はあはれ
一 園 儿隠

うさぎのたきう 鳴く 佐々木 赤回 隣家

まじりくさる子と 草の庵 は戸 巢北

牛の尻と 尻のうら ねと 成茂

折る白と 陽をたしと 歌の都 安藝 玄蛙

花のふくを 結させて 晴んとき 行脚 麦宇

ゆく春を えてい 家の定の ぼりうさ 美濃 千阿

観るも 喜むや ときおと 南 南河 馬遊

二月の ときお 侍子の 夕日 北 指鳩

十げり 家と 入えり 夕柳 煮御

ゆ 結る 結る 結る 結る 和秀

子 腹を 梅の 自由を 結る 菜水

朝 結る 家と 結る 柳 仙臺 子孝

梅 咲く や 結る 結る 結る スカ川 雨孝

下らん の 腹を 結る 結る 東 哦

菴の 結る 結る 結る 結る 仙臺 東島

草の 結る 結る 結る 結る 東 居

龍は糸舟のぼしる柳山仙臺其雲

暁のまじり梅のまじり尾張梅田

たのよきふきふきふきふき南部千種

ふちつてふちつてふちつて善光寺希言

ふくくく新くぬ春の草田家

え日や人の妻ふくくく塚茂良

田子一ひきはきりかや梅の毛尾張元義

永くはや時やなしくくく江戸不寒子

花のやましくくくく伊賀完来

糸の戸のまじりくくく春扉

けいさのまじりくくく藤十芦屋

きけふくくくくく飛弾借史

茶ふくくくくく甲斐一左

尋の言をぬり月けくく方居

つ止んてくくくく行脚太年

み梅やふくく朝の目きり竹里

梅の影をうつす水に伏水響義

河内海や知を流るる梅の心筑前系年

おほろおほ土橋をさるる中紙袋井枕觴

梅の影をうつす水に井眉

を付れやうよ自出る梅乃中 長馬

梅影をうつす水に浪甫

我細の妻を瘦るる梅の影讃岐枕里

けりやうよ離の影をうつす水南部北溟

うきうきすけおるる水に 桐の水 赤輔

まららやとみちおるる 垣根子 暮陰

既の影をうつす水に京木海

戸らうきよなねるる水に山本未徹

とつ口つと静まらなり 喜の雀 此坊

元たりあつ中のみぬるる水に 雨井

まあらう牛らあらう水に 芭士

けりやうよ離の影 月人

志々柳々何々一室然と昔々
氷儿
其西の山々々々々々々々々々
死山
何々何人々信ふ其の如
自谷
歩行々々々々々々々々々々
鹿古
時々々々々々々々々々々々
双美
善柳々々々々々々々々々々
江戸
白圭
於此又野あ〜〜〜あは日比、東子
松林々々々々々々々々々々
伊丹
比良

傾城々々々々々々々々々々
頂山
翠々々々々々々々々々々々
如奔
其々々々々々々々々々々々
百堂
朝戸出々々々々々々々々々
一草
其れり候やう又出市あけり旭
春思
万歳や子供々々々々々々々々
大津
騏色
曉々々々々々々々々々々々
吉人
馬行
其々々々々々々々々々々々
江戸
斗月

かしらと一もほしやうきねふ 家久
 言ふて家の行や土年の節の敷^{口戸} 里雀
 け家の子くまふは流る^{兵庫} 分貫
 朽^{下總}まふれされまふる小亀弘 驪月
 梅咲てまふる月 舟の枝 蓬呂
 空^石の家とまふるねのまふる葉 石鯉
 飛蝶の影もすふる鳥 馬鹿
 まふるまふるまふるまふるまふる 昔美

春れ口や何ししてまふる家の人 岡島
 そのまふるまふるまふるまふるまふる 昔美
 不^不まふるまふるまふるまふるまふる 蒼塚
 花^花のまふるまふるまふるまふるまふる 其明
 又^又のまふるまふるまふるまふるまふる 太節
 花^花はまふるまふるまふるまふるまふる 阿波 夷松
 花^花のまふるまふるまふるまふるまふる 宇舟
 花^花のまふるまふるまふるまふるまふる 昔人

杉風のそよ風を石正の戸口外 小籠峰

ほし葉のやうな月子と寝て 蓬宇 河内

尾首のやうな女と寝て 卓老 尾首

ちとそよ風を人々の心と寝て 月夜

まはるくまはるくまはるくまはるく 玉屑 横

貴なるまはるくまはるくまはるく 方明 尾張

空もあつた 梶の葉と寝て 射我

あつたまはるくまはるくまはるく 冠子

こゝろをたのむ 灯の影の家 橋中 小豆嶋

うしろをたのむ 燈の影の家 東坊 尾張

當分の影をたのむ 燈の影の家 九岳

西の影をたのむ 燈の影の家 大高

佛の影をたのむ 燈の影の家 麦阿

卯の影をたのむ 燈の影の家 眠心

まはるくまはるくまはるくまはるく 浦且

月をたのむ 柳の影の家 沙鷗

見取の草のまじりて花の草明石 垣西

梅折のまじりて海のまじりて台下 干當

五の目やまの森のまじりて水戸 湖中

うさぎのまじりてまじりて京 管鳥

修行者の軒のまじりて下屋のまじりて江戸 胡準

久きまじりてまじりて播磨 田日

いつの代のまじりてまじりて丹波 武陵

残月やまじりてまじりて近江 眠沙子

押おまじりてまじりて久苗米 一の壘

さうまじりてまじりて大石 芦月

まじりてまじりて彩在家 土流

花まじりてまじりて彩在家 里本

一里のまじりてまじりて 林 一明

はかりのまじりてまじりて 奇洞

夕籠子のまじりてまじりて出羽 長翠

まじりてまじりて信濃 草花 虎杖

人言ね梅もむさうさの花 兵庫 素長

善風下麻上下お投頭巾 江戸 蚊牛

来とぬ人も梅より梅外 御 幽嘯

鳥供ふ花をとききし 臘月 系 梅價

志の鳥よ月ら大し是の海 伏水 いと女

山にさるるぬ人のしあはさ 以脚 はりて

牛馬ふて畑一軒さ梅外も 系 花明

貧乏の赤き寺あり雛子の色 薩 青梁



胡才燕いしより子よを葛補 京 五葉

灯をさぬらきく成りり夏は山 廣嶋 布雪

五月あけと中つる年た産ふ 伊賀 九十

かんここの鳥をからはぬか茂堤 伊賀 兔翁

葉のさつとちも朝をさすれ 廣嶋 万和

板を大や山の伝名をうやほ 筑前 宇柏

燈や高平はいては 筑前 南六

惜しむねふかき夜越下時鳥 伊賀 青李

春の人のよもふ家や海もよみ 加賀 車大

月もくこ月もたきわねのね 石巻 涼堂

はるこれの朝よとまわ夜たふ 小豆崎 鳴芽

こり月やさくやけとま 尾張 常梅

鳴りかきあふ下たきく在ま 加賀 大泉

朝のるら 碓も得し 加賀 其谷

夏夜や梅よしろき 厚路子 眉山

推柴下雨うめき 兵庫 桐栖

妻前ていさ 備後 多摩丸

はる 金亀

さ 小青

山 仙臺 百非

は 里曉

の 月吞

身 京 定雅

されしを起るる可の都に 仙基 昇月

み戸をえて卯む恒をまゝり 本宮 秋ま

お風の吹くられ可宗子 筑前 一之保

五月の乃の汝をさるる 尾張 自由

くれきしをちをふら 松嶋 岳輪

酔ふれせしをち 金成 投雲

月をさるる 信改 東原

蜀魂なり 若人

雲のむも 出羽 民足

くね 長明女 尾女

香 南部 志白

口 掃月

昔 英里

夫 彦や

を 言尤

夏 東瑠

夏 東瑠

史丁やうふたくれの衣は桂路
鬼ゆかり向ふもさしお起るや
山更や百舌も草灯を照る光堂二溟
衣うく扇子もきこゆる仙臺峯羽
はしくさし清くおされまの杖其此
一はうさくやあ月のふくむ花行脚おくも
船もさくおき算つてくは道仙臺乙二
橋うすめおの世も越やうに又々

すれあふて枝ぬえりあ糸の糸相思
暎のふれ訪ふ来ぬ牡丹南部田後
毎日ら来きもあさひのまもふ仙臺外六
傘ささておねほも枝母仙臺三徑
ほくもあ月を射るも平尾張桂五
う月おあさきのられや夜か下野葛五
うさくさくさくさくさくさくさく支連里
鶴もさくさくさくさくさくさく行脚月三

故のそしめはきあゝの嘆のふり南部 春庭
 人もさうて 灯口もけり 杜若二永松 人
 五月も 月もさちさち 朝の昔 丹頂江戸
 灯もささけいぬのきさる 五月も 有主
 芦 萱の舟うゝ 振く 雲うぬ 固村
 更衣いさゝ 勝のほろをせり 玉哉筑前
 合歡のそれ 他何れ 細き土おて 尤琴越後
 梅夫行脚

報を愛家門へ 青田れ白しろれ 月泉信州
 山道城考 圃子 言ん 書か秋 友國
 筆 やり けり たる 唐うゝ 石池筑前
 橋の流 咲や さらさら 流るる 方逸
 山の色と 水のうら 似たり 鳥 醉月仙臺
 夏谷の ともな くらう ぼろ 盛李京
 过 所 竹 子 又 けり 居然
 つき け あり の ね とも 夏 本 壺 伯信州

とありていふは、おのれをいふは、
ありていふは、おのれをいふは、
梅さくら花、海あまをいふは、
りとも、是のふ及の、
いづかのふ、の原

は 甚 然 也

